

林いさお通信

No.69 平成22年11月

林いさお後援会事務所

〒354-0045 埼玉県入間郡三芳町上富1003 TEL 049 (259) 2228 FAX 049 (258) 0968

林いさお公式ホームページ <http://www.isao.bz/>



ピカいち!!の3つの約束 その2

子どもの幸せを第一に

のたま これ と すでに と
曰わく之を富ません、既に富めり

また なに くわ
又、何をか加えん

のたま これ おし
曰わく、之を教えん

『論語』子路第十三より抜粋

孔子が衛の国に行かれた時「人口が多いね」と言われた。これを聞いた弟子が、「先生ならばこの上に何をなさいますか」と尋ねた。

先師が答えられた。「国民が裕福になるようにしたい」

弟子が、「その次ぎに何をなさいますか」と尋ねた。

先師は答えられた。

「人間教育(道徳を主とする)が大切だと思う」

この『論語』で、教育がいかに大事か、ということ孔子は説いています。三芳町も子どもの幸せを第一に考えて、率先して教育問題に取り組んでいくべきだと思います。

※三富新田(三芳町上富、所沢市中富、下富)の「富」は、この『論語』から引用されています。

未来
開拓宣言!
やります! 明日の三芳のために!



乳幼児の虐待や不登校、引きこもり、いじめ、さらには老人の孤独死……。家族が崩壊し、日本経済も停滞し、閉塞感が漂っています。今こそ100年先の将来を見据えた理念と戦略が求められる時ではないでしょうか。子どもの問題や親子の問題こそ、自治体が率先して取り組まなければならない課題です。読書環境の充実、待機児童の解消、児童・生徒の学力アップなど、子どもの幸せを第一に人間教育に力を入れるべきだと考えます。主要施策の幾つかを紹介します。

1 子どもの心を育む町

教育は100年の計です。日本経済が停滞し、家族が崩壊し、閉塞感が漂う今こそ、未来の日本、未来の三芳を背負う人づくりが何よりも求められています。たとえばフィンランドは、1990年代の初め、ソ連の崩壊に伴い、失業率が20%を超える大きな経済危機に苦しんでいました。1994年、国の未来を切り開くには教育しかない、と、大胆な教育改革を進め、いまでは、世界のトップクラスの経済競争力に加え、学力世界一を誇る国にまでなっています。

のびと生活でき、豊かな情操を育むことができるように、地域全体でサポートしていくことが大切です。自治体が率先して、そうした環境を整えられるよう、できることから一步一步、着実に整えていくべきです。未来の子どもたちのために、教育改革を積極的に推進していきます。

1-① 「ブックスタート・プラス」でさらに読書環境を充実させます

子どもに関する対策の多くは、虐待や引きこもりの子どもたちを救おうとするもので、問題の発生



子どもの発達に欠かせない読書環境

そのものを予防するものになっていません。予防のカギとなるのは読書。校内暴力やいじめ、キレるというところ、活字離れ・読書離れの問題は同じ根を持つといわれており、読書によってよく脳を働かせると、想像力や人間らしい感性も豊かに育ちます。

平成19年9月議会でブックスタート

2 子育てで住みたくなる町

三芳町でも少子高齢化が進み、65歳以上の高齢者人口が総人口に占める割合（高齢化率）が21%となりました。

活力があり元気な町は、若い人があこがれ、住みたいと思う町です。

1-② 快適な学習環境を整備し、基礎学力の向上を目指します

今年の猛暑、学校では子どもたちが蒸し風呂のような教室で勉強をしていました。ほとんどの家にエアコンがある今の時代に、あまりにも酷な環境です。県内学校のエアコン設置率は自治体によって差があり、公立小学校の普通教室で23.7%。戸田市、和光市、さいたま市は全小中学校の普通教室に導入しています。教室にエアコンを設置して快適な学習環境を整備し、授業に集中できるようにします。

1-①について一般質問を行い、三芳町でもブックスタートが実施されるようになりました。1歳6ヶ月の幼児健診時に絵本をプレゼントする「ブックスタート・プラス」を新たに実施するなど、子どもの読書環境を充実します。



三芳町のお母さんたちとの語らい

す。子育てで住みたくなる「子育ての町・三芳」を目指します。

2-① 「待機児童」をゼロにします

社会情勢の変化で共働きの家庭が増えています。子育てと仕事が両立できる環境を作ります。民間保育所の新設、学童保育室の増設等迅速に対応し、待機児童をゼロにします。

2-②③ 育児の不安を解消します

子育て支援センターを充実します。子育てで悩んでいる保護者の

ために、子育てWEBを開設し、いつでも相談でき、交流できる環境を整備するとともに、子育て支援のNPOなどを充実させます。さらに、シングル家庭の負担軽減と支援のためファミリーサポートセンター利用謝礼の半額助成を実施します。

2-④ ワクチンで命を守ります

ワクチン接種によって、子宮頸がんの原因となるウイルスの50〜70%の感染を防止でき、ヒブと肺炎球菌のワクチンで、細菌性髄膜炎も90%以上防げると言われています。

政府は、市区町村が接種を受ける人に費用を助成する場合、助成額の半分を国から出す事業として2010年度補正予算案に1085億円を盛り込みましたが、10年度は50%、11年度は100%の自治体が無料化した場合を想定して算出しています。

女性と子どもの命を守るワクチン接種を、三芳町の人たちにぜひ受けていただき、安心して暮らしていただきたいと思います。

表1 ● こどもの幸せを第一に

1 子どもの心を育む町

- ①「ブックスタート・プラス」でさらに読書環境を充実させます
- ②エアコン設置により豊かに生きる基礎学力の向上を目指します
- ③学校ファームを設置し、食育を推進します
- ④安心安全な教育環境を作ります
- ⑤アジアの青少年との交流を積極的に進めていきます
- ⑥青少年の健全育成のためにスポーツ振興を行います

2 子育てで住みたくなる町

- ①「待機児童」をゼロにします
- ②育児の不安を解消します
- ③シングル家庭の支援をします
- ④ワクチンで命を守ります
- ⑤誰でも憩える自然公園を作ります

2-⑤ 誰でも憩える自然公園を作ります

「一日憩える大きな自然公園がほしい」という声を聞きます。三芳町では、「緑の基本計画」の中に多福寺の森公園、庁舎周辺の緑の公園を含む総合スポーツ公園などの大きな公園構想があります。生態系に配慮し、子供からお年寄りまで憩える自然公園を開設すべく、着手していきます。



三芳町に残る豊かな雑木林

(ボランティアの思い出)

1997年1月7日、ロシア船籍ナホトカ号が福井県三国町沖で座礁、重油が流出。地元の海女さんたちが、漂着した重油の回収を始めるニュースが全国に流れました。当時、私は、あるNGOで日本国内外の災害等へ緊急支援する

委員長をしていました。早速、翌日には現地に飛びました。「阪神・淡路大震災でお世話になったお礼に」と日本災害救援ボランティアネットの先発隊も現地入りしていました。地元の自治体は、各地から申し込んできたボランティアを「登録」しただけで、動かすにいました。阪神淡路を経験して

いるネットの人は、「このままだと、多くのボランティアが勝手にやってきて作業を始め混乱する」と受け入れ体制の整備を提案。地元青年会議所やボランティアの皆さんと海岸沿いの小さな公園にプレハブの本部を建ててボランティアセンターを開設しました。翌日から2000人を超えるボランティア

が押し寄せましたが、対応できる組織になっていたのには驚きました。あらためて災害の初動時に指揮できる人材の養成がいかに大切かを強く感じました。全国から重油の除去のために集まってきた高校生や大学生の姿が輝いてたのが印象的でした。



絵・長女瑛子(嫁いで長崎県壱岐市に住んでいます)

編集後記

あるご家庭を訪問した時のことです。おばあちゃんが突然語りかけてきました。「『念ずれば花ひらく』は、昨年13回忌を済ませた主人が好きだった言葉です。『林いさお通信』(67号)を見て、同じ言葉だとびっくりしました」見ると玄関には坂村真民さんの色紙が◆「坂村真民、私も尊敬する方です」こんなお手紙もいただきました。この同じ町の空の下で、真民さんの言葉で心が一つにつながっている……感謝の気持ちで一杯です◆その他にも、多くのお手紙をいただいています。また、毎日、駅で、そして自転車や車からも「頑張ってるね」とお声掛けをたくさん頂戴しております。皆、願いはひとつ。「いい町を作ってほしい」。一人ひとりの願いを胸にしっかりと受け止めて頑張って参ります。